

# 地域の会



▲第42回定例会



◀第41回定例会

## CONTENTS

第41回定例会  
耐震指針改訂について .....2

第42回定例会  
取放水温度差改ざん問題等について .....3

発電所を巡る主な動き  
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」 .....4

### 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

#### 地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視  
(2)事業者等への提言  
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供  
(4)委員の研修  
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会（毎月1回）  
臨時会（必要に応じ開催）  
※会は、原則すべて公開。

# 第41回定例会

## 耐震指針改訂について

### 第41回定例会の概要

- 開催日 平成18年11月1日(水)  
 場所 刈羽村「ラピカ」第1・2学習室  
 出席者 18名(欠席6名)  
 オブザーバー 新潟県、柏崎市、刈羽村  
 保安検査官事務所  
 地域担当官事務所  
 東京電力(株)  
 内容 ●前回定例会以後の動き  
 ●耐震設計審査指針関連について  
 ●その他

【新潟県】北朝鮮の地下核実験実施の報道を受け、放射線監視体制を強化したことについて

○環境放射線監視を通常の9箇所に加え、県環境センター(5箇所)でも実施。さらに大気浮遊じんに含まれる放射能の調査も実施。

○空間線量率の異常な数値は確認されず、核実験によると思われる人工放射性物質は検出されなかった。

【柏崎市】地域防災計画原子力災害対策編の修正案について

○昨年度の原子力防災訓練、中越大地震を教訓に修正。主なものは次のとおり。

- 自然災害との複合災害時を考慮した訓練の実施
- 原子力災害時に事業者に対して、市本部への説明員の派遣要請
- 衛星携帯電話の活用による通信手段の多様化
- 災害時要援護者への配慮
- 安定ヨウ素剤の市内小・中学校への分散配置

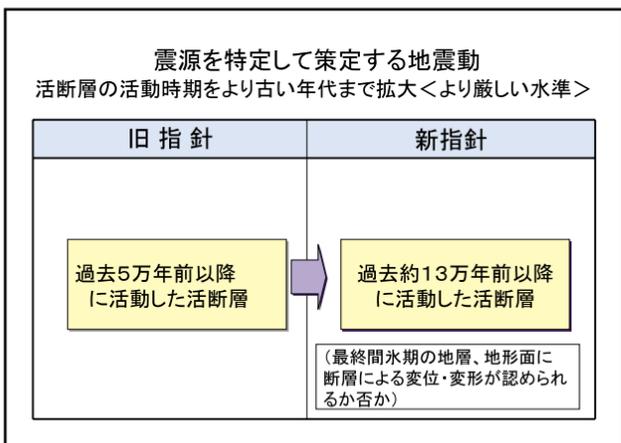
の分散配置

●荒浜地区自主防災会の防災訓練の成果を反映した避難誘導マニュアルの整備

### 【質疑応答】

Q 地域の施設等の現状をふまえた、避難誘導マニュアルの見直しをするのか。  
 A (柏崎市)防災計画の主な施設は、毎年度状況を確認し、訓練の成果を反映するとともに交通シミュレーションを含めて区域の拡大を考えたい。

### 【保安院及び東京電力】耐震指針改訂について



### 【保安院】

○9月19日に原子力安全委員会が耐震指針を改訂。  
 ○この改訂により、地震学や耐震工学の最新の知見がよりこまれた、主な改訂は次のとおり。

- 建物・構築物の剛構造と岩盤に支持を削除
- 厳格な地震動の策定：5万年前以降の活断層↓12〜13万年前以降の

活断層を調査し、より高度で厳しい評価を実施

○緊急時に原子炉を冷却する施設などの耐震重要度の要求を格上げ。

(参考)後期更新世の柏崎 (参考文献等)柏崎市立博物館、「鯨波のナウマンゾウ」より

地質時代	絶対年代	地層名
完新世	1万年前	新期 砂丘 砂層
		新柏崎 砂層
更新世	15万年前	笠島 砂層
		安田 層
		青海川 層
鮮新世	200万年前	米山 層

鯨波地域の層序

### 【東京電力】

○起震車を用いた地盤データの測定(地下探査)が10月27日に完了した。データの解析には、平成19年3月までの時間を要する。

○1〜7号機に対して地盤、建物、原子炉本体、配管機器、土木構造物等の耐震安全性の評価を行う。

○地震に伴う津波に対する安全性や周辺の斜面の安定性についても評価を行う。

○基準地震動の検討、施設の安全を確認するのに2年強(平成20年12月まで)の時間を要する。

○11月14日刈羽村、15日柏崎市で説明会を開催。

### 【質疑応答】

Q より厳しい基準とあるが、従来の建物等は岩盤に支持させる“から”十分な支持性能を有する地盤“で”甘くなっている。本当に厳しくなったのか。

A (保安院)耐震技術の進歩により支持基礎の選択肢が増えたことにより削除された。地震動の策定などは厳しくなった。耐震性の厳しさは現指針と新指針は同じである。

Q 5〜7号機周辺では地下探査を実施していない。ボーリングより深い所を調べられる地下探査を実施しないのは何故か。

A (東京電力)敷地内では多数のボーリングの他、試掘坑という調査用トンネルや岩盤検査を行っている。今回の地下調査の目的は、活断層の調査である。新指針に照らした評価は、12〜13万年前までに形成された『安田層』のずれを調べればよい。地下調査をしなくても過去のボーリング調査で十分である。

Q 7号機は、人工の岩盤を造って設置したと聞かすが、どうなのか。

A (東京電力)7号機については、新工法として部分的に人工岩盤を採用した。海の中にも断層があると思うが、調査は行うのか。

A (東京電力)発電所の設置許可申請書に載せてあるが、地下探査と同様な方法で沖合い30kmくらいまでのデータがある。

Q 基準地震動策定のための調査と並行して既存施設の耐震安全性の評価はできないのか。

A (東京電力)地質調査の結果に基づき、基準地震動を策定する。基準地震動が決まらなると施設の耐震安全性の評価はできない。

Q 今の施設に対して縦や横の振動を与えたシミュレーションはできないのか。

A (東京電力)設計は、地震に対して十分な余裕を持っているが、今回は、念入りに評価を行う。



Q 十分な余裕とは何か。

A (東京電力)兵庫県南部地震、新潟県中越地震などの最新知見に対しては、その都度、耐震設計への影響を確認している。また、重要な機器については、震動台に模型を乗せ、実際に振動させて壊れないことを確認している。

Q 2年もかかって新指針に照らした安全性を評価し、その後に対策を立てるのでは時間がかかる。早くできないのか。

A (保安院)従来から新たな知見を踏まえた耐震安全性の確認を行ってきた。新指針に対しても基本的には安全性を確保されていると考えているが、新たな手法を用いて信頼性を上げたい。調査に見落としがないように慎重に、慌てずに実施し、分析する。地元でも十分議論する時間が必要。

Q 津波に対する対策はどうなのか。

A (東京電力)津波対策は、水位上昇と引き潮による水位低下で冷却水確保ができるかを検討する。津波では、原子炉の余熱を除去する海水確保が重要となる。海水ポンプの取水レベルは津波の引き潮を考慮して、十分深い位置にしてあるが、今の深さで十分かどうか今回評価する。

# 第42回定例会

## 取放水温度差改ざん問題等について

### 第42回定例会の概要

開催日	平成18年12月6日(水)
場所	柏崎原子力広報センター 研修室
出席者	19名(欠席5名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所 地域担当官事務所 東京電力(株) エネルギー総合工学研究所
内容	●前回定例会以後の動き ●発電所における取放水温度差の改ざんについて ●その他

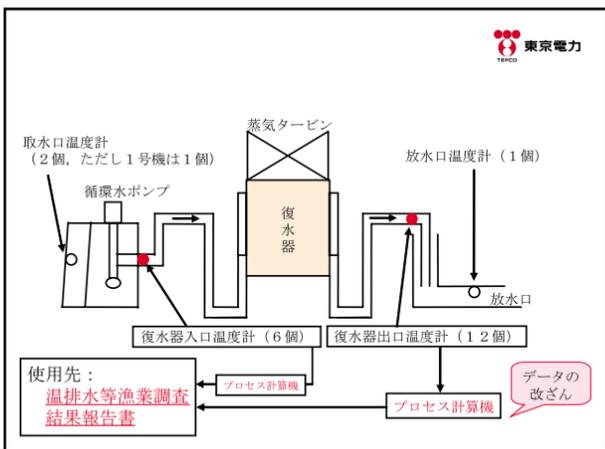
東京電力から、柏崎刈羽原子力発電所の1号機及び4号機における取放水温度差改ざん問題の経緯等について

#### 【説明の概要】

十一月に中国電力(株)下関発電所(火力発電所)において、温排水のデータの不適切な補正が行われたことが明らかになり、柏崎刈羽原子力発電所でも同様なことが無いか、調査を実施した結果、1号機及び4号機で取放水温度差のデータ改ざんが行われていたことが判明した。

問題点は①1号機及び4号機の復水器出口温度のデータを改ざんした。  
②このデータを県への報告書(温排水等漁業調査結果報告書)に一部引用した。  
③1号機については平成6年から、4号機については平成14年から今日までデータの改ざんが継続した。ことである。  
また、放水口の温度差の上昇に影響したのは、1号機を1台運転している時に比べ、その後2・3・4号機と順

次完成し運転したことにより、放水堤の水位が上がったこと。4号機については、放水路の長さが長いことから貝等が付着し、流れが悪くなる。いずれの場合も流量が減少し、その結果温度が上がったと推定している。



#### 【質疑応答】

**Q** 放水堤の水位が上がるとか、貝が付着する等の状況は、5・6・7号機についても考えられるのではないか。

**A** (東京電力)状況は1〜4号機と同様であるが、6・7号機はプラントの出力を上げたことにより、ポンプの設計が大幅に変わっているため、温度差については余裕がある。

**Q** 当初、「不適切な補正」という表現で公表したのはなぜか。

**A** (東京電力)先に火力発電所でデータ補正と発表されたこと。それから、データ処理時の誤差を補正するというものが設けられていることから表現した。改ざんを隠そうという意図は無かった。

**Q** 県等、行政の監視体制や対応は不十分ではないのか。

**A** (新潟県)4年前の不正問題以来、厳しく対応してきている。今回の改ざん問題についても、東京電力という会社全体の体質の問題として、県知事、柏崎市長、刈羽村長の三者連名で、「徹底的な調査の実施、その結果の公開、再発防止策の実施」を強く申し入れを行っている。

**A** (柏崎市)今回のことについては、信頼回復の途上で非常に遺憾である。品質保証体制の確立は、安全を担保する最重要事項であり、早急な原因究明と再発防止策を求めた。但し、速やかな水平展開の対応、告発ではなく社員から直接話が上がつて来たことなどは、今までの再発防止策の成果が現れて来ていると評価して良いのではと思っている。

#### 【各委員の意見要望】

●4年前の事件以来、信用回復に努力して来たと思っているが、裏切られたという思いが強く、非常に残念だ。

●今回の東京電力の対応は4年前と違い、「その公表や指示に対しての行動は早かった」と企業体質は変わっているという評価している。早く原因究明をし、スピーディーに対応し信頼回復を図って欲しい。

●今回のような補正や改ざんは有ってはならないことであり、二度と発生しないよう努力してもらいたい。

●国をはじめ、行政はチェックをしっかり行なって欲しい。

●直接安全が損なわれることでは無かったとは言え、地域住民は安全に係ることに認識する。地域住民に説明をすることが大事である。

#### 【定期検査中の7号機における作業員の放射性物質の内部取り込みの事象について質疑応答】

**Q** 放射性物質は何か。

**A** (東京電力)コバルト60が主である。

**Q** どういう形で取り込まれたのか。

**A** (東京電力)原子炉圧力容器の上蓋の取付け作業中に、取付けボルトに付着していた放射性物質のほりりが舞い上がり、吸い込んだものと推定している。

**Q** そのような放射性物質は、どのように処理され、管理されているのか。

**A** (東京電力)放射性物質は、紙や布でふき取られ、固体廃棄物としてドラム缶に隔離する。

**Q** 衣服にも付くと思うが、どのように処理されるのか。

**A** (東京電力)常に汚染度の高い区域に入る時は、使い捨ての上着を着る。下着については洗濯をするが、洗濯水はろ過をし、放射性物質が無いことを確認し、海水中に流す。

#### 【前回定例会(11月1日)における質問に対しての回答】

**Q** 耐震指針の関係で、柏崎刈羽原子力発電所敷地内での地盤ボーリング調査はどのような内容だったのか。

**A** (東京電力)ボーリング調査は、新期砂層、番神砂層、安田層及び西山層まで、最深のものは350メートル、浅いもので6メートルで、全部で約770本実施した。

**Q** 刈羽村の、原子力防災対策について、住民への周知徹底はどのようになっているか。

**A** (刈羽村)「原子力防災のしおり」を全戸に配布している。避難訓練は隔年で実施し(前回は平成17年に実施)、そこでの住民の要望及び反省を次回に反映させ、万全を期している。

#### 柏崎市の原子力担当部署に「原子力」の文字を復活するよう市長へ要望書を提出

柏崎市長 会田 洋 様

#### 要望書

柏崎市役所課名に「原子力」の文字を復活させていただきたく要望いたします。世界最大規模の原子力発電所がこの地域にありながら、今年4月に柏崎市役所原子力担当課の課名から「原子力」の文字が消えたことに、驚きの思いは消えず、今なお持ち続けています。

この地域に生活する住民としては、安心と安全の観点からも「原子力」の看板を掲げる部署の存在意義は大きいと考えます。

また、原子力防災と一般防災については、課をそれぞれに独立させることが望ましいと考えます。

原子力は、専門的な知識を必要とするものであり、一般防災と重なる部分はたくさんありますが、兼務することは難しいであろうと存じます。

よって、課のレベルで独立させることによって、より住民の安心と安全の確保が得られるのではないかと思います。

平成18年12月6日

柏崎刈羽原子力発電所の  
透明性を確保する地域の会  
会長 新野 良子

※平成19年4月から課の名称を「防災課」から「防災・原子力課」に改める旨、回答を得ました。

# 発電所を巡る主な動き (10月3日~12月6日)

10月3日	保安院 (株)東芝に対し、実流量試験データ不正問題に関し、改善指示事項の反映及び再発防止策が実行されているか、立ち入り調査を実施
9日	新潟県 北朝野による地下核実験実施発表を受け、放射線の監視を強化の実施と、大気浮遊じんに含まれる放射性物質の測定を、県内5箇所で実施
10日	県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認
17日	「東通原子力建設準備事務所」の設立について公表
18日	「発電用原子力施設に関する耐震設計審査指針」の改訂を踏まえた耐震安全性評価実施計画書の提出について公表
26日	6号機原子力炉冷却材再循環ポンプ(日)の直流制御電源装置の交換について公表
27日	保安院 11月25日(土)福井市において、「二日原子力安全・保安院(二日保安院)」の開催を公表
27日	6号機における定期安全レビューの実施について公表
31日	新潟県 新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会開催
11月2日	保安院 中部電力(株)及び北陸電力(株)から、蒸気タービンの羽根のひび等に関する原因と対策に係る報告書について妥当である旨と取りまとめた
6日	保安院 刈羽村 安全協定に基づく状況確認
8日	定期検査中の7号機における作業員の微量な放射性物質の内部取り込みについて公表
9日	7号機原子力炉建屋でのけが人の発生について公表
10日	キヌタ保管庫(管理区域)における微量の放射性物質の確認について公表
13日	保安院 平成18年度原子力総合防災訓練の実施
14日	保安院 実用発電用原子力炉に対する保安検査結果等(平成18年度第2四半期)について原子力安全委員会に報告
15日	保安院 実用発電用原子力炉に係る平成18年度第2四半期の保安規程の認可実績について原子力安全委員会に報告
17日	耐震設計審査指針改訂に伴う発電所の対応についての地域説明会開催
20日	5号機原子力炉建屋付属棟内(非管理区域)における水道水漏れについて公表
22日	最近の放射性物質の管理に係る事象の対策について新潟県へ報告公表
25日	5号機サービスマン建屋(非管理区域)における潤滑油漏れについて公表
27日	5号機の定期検査開始について公表
30日	保安院 福井市において、「二日原子力安全・保安院(二日保安院)」を開催
12月1日	定期検査中の5号機タービン建屋のクレーンからの潤滑油漏れについて公表
4日	柏崎刈羽原子力発電所港内(取水口付近)における海底土からのコバルト60の検出に伴う追加調査結果について公表
5日	発電設備に係る点検に関する原子力安全・保安院からの指示について公表
6日	保安院 電気事業者に対し、水力、火力及び原子力発電設備においてデータ改ざん、手続きの不備等問題がないか点検を求めた
	3号機原子力炉建屋大物搬入口前(屋外)でのけが人の発生について公表
	柏崎刈羽原子力発電所の冷却用海水の温度のデータ改ざんについて、県知事、柏崎市長、刈羽村長の三者連名で東京電力に対し、原因調査とその結果の前面開示及び再発防止策の実施について申し入れ
	定期検査中の7号機の原子力炉起動操作実績について公表
	福島第一原子力発電所1号機における復水器海水出入口温度測定データの不適切な取り扱いについて公表
	福島第一原子力発電所1号機における検査データの改ざんに係る報告徴収について公表
	保安院 東京電力(株)に対し、同社福島第一原子力発電所第1号機における検査データの改ざん問題を受け、その事実関係、原因、再発防止策及び同様の事例の有無について、調査報告を指示
	定期検査中の7号機の発電開始について公表

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分  
 ■色は東京電力の動き ■色は行政の動き

## 地域の会に寄せられた声 みんなの広場

### 原子力発電所に思うこと

柏崎市 高橋 武さん



私はこの柏崎で生まれ育ち、子供の頃から原子力発電所は存在し、何も心配もしていなかったし、不安なことなどほとんど教えてもらわなかったように思えます。むしろ高校を卒業し、他県に進学、就職した際に決まって「原子力発電所のある柏崎出身です。」と自己紹介するとほとんどの人から知ってもらえたり「世界最大の原子力発電所だね。」と逆に話が盛り上がったことを覚えています。

7年前に帰郷し、原子力発電所のデータ捏造、トラブル隠しなど少々がっかりしたというのが本音ではありますが、その後の信頼回復への誠意的な取り組みなどは一定の評価を得るものだと思います。「しない風土」「させない工夫」この経営課題が東京電力職員はもちろん発電所内に働く何千人もの人達が同じ思いで作業に取り組んでほしいと思います。

現在、発電所の耐震指針の見直しによる調査が行われていると伺います。あの中越地震でも運転に支障がないと運転を続けていた経緯は疑問を持ちますが、より厳しい耐震設計に向けて調査し、耐震安全性の評価の見直しを進めてほしいと思います。そして「どんな地震が起きても大丈夫です。」というわかりやすい説明を期待したいと思います。そしてより安全に、より安心に発電所運転ができるために何をしなければならぬかという視線で改善に取り組んでほしいと思います。今後の取り組みに期待しております。



### 「必須」な「危険」であるがゆえに

柏崎市 尾崎 康寛さん

子供の頃、私はよく友達と「東京電力・柏崎刈羽原子力発電所サービホール」まで自転車で遊びにいっていました。別に原子力発電に興味があったわけではありません、ただ子供にとっては万博会場の様な館内の雰囲気を楽しめたからです。そんな遊び気分で行っていた場所で「原子力」「核分裂」「ウラン」「発電機」「タービン」等々の言葉を初めて耳にしました。

当時の印象に残っているのは、原子力発電は「無公害」で「直径1cm、高さ1cmの円柱状のウラン燃料からドラム缶約7000本分の原油燃料に匹敵するエネルギーの確保が可能」という2文句で、いわゆる「好印象」でした。そして高校生くらいになった頃の私はすっかり原子力発電に肯定的な考えを持つようになっていたのです。だってそうでしょ、正しく安全に取り扱えばこれほど「環境的」で「経済的」なエネルギーの確保って他にないんだもん。

し・か・し!! 時は経ち社会人になると、こんな考えが180°とまではいかないが、90°は超える位にかわってしまった。何故なら企業が「利益」と「生産性」に突き進んだとき、「安全性」と「透明性」が疎かになり易い実態を目の当たりにするからである。例えば、稼働に直接影響を与えない計器の故障は設備停止予定時まで交換せず、その間の計器の記録がとれないとか、忙しさのあまり予防保全が事後保全になっている等、工場にお勤めになっている方なら心当たりのある人もいないではあませんか? もし、原子力発電所内でも同様の実態があったと考えると非常に怖いのだ。

原子力発電は今や「必須」なエネルギー確保の方法のひとつでしょう。そして同時に「危険」なエネルギー確保の方法でもあります。ゆえに「安全性」と「透明性」は何よりも優先させなければなりません。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

**■今後の「地域の会」定例会の開催案内■**

**第45回定例会**  
 日時:平成19年3月7日(水)午後6:30~  
 場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

**第46回定例会**  
 日時:平成19年4月4日(水)午後6:30~  
 場所:柏崎原子力広報センター(研修室)

※原則、毎月第1水曜日(5月~9月は午後7時から、10月~4月は午後6時半から)の開催です。  
 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますのでご了承ください。  
 ※詳しくは「地域の会」事務局までお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。お気軽にお越し下さい。

**地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。**

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

**編集後記**

穏やかな素晴らしい元旦を迎え、幸先のよい、新たな年がスタート致しました。

私はおめでたい時に使う、紅白の色についてある時、非常に印象深く聞いたことがあります。

紅は血潮、燃え立つ様に新たな出発の情熱を表し、白は無限、なにもない初心に返ってゆく無垢の状態を表し、無垢の状態から無限の可能性を求めてそれを新しく塗り替えた若い血潮で情熱を燃やしてやり直そう……こう言う新たな出発の気持ち、紅と白のめでたさに象徴されていると云われます。

地域の会の一員として、紅と白の気持ちになって、この年を送りたいものだと考えます。

地域の会の準備会発足から早くも四年が経過しました。今日に於いても、様々な事象や問題が生じ、安全・安心への道は険しく、課題は数多く見受けられますが、住民皆様方のご支援とご理解を頂きながら、地域の会の任務を一步步進めたいと考えます。又、その活動は地域の会発行の情報誌「視点」や左記のホームページでご確認を頂きたいと思っております。

(運営委員 渡辺(丈))